



みんなの がっこうの どうぶつ 資料特集号(冬支度編)



2015 年 月 12 月下旬
資料特集号

発行：公益社団法人 栃木県獣医師会 学校飼育動物委員会



この号の内容

- 1 今年が暖冬の予想ですが・・・
- 2 ウサギの冬支度
- 3 鳥類の冬支度

2. ウサギの冬支度 北風対策

- 透明ビニールシートを利用した方法

防寒対策

- 巣箱の設置
- 敷きわらの増量

冬は巣穴を塞がないで！

巣穴は、穴ウサギにとっては、寒さからの避難場所です。巣箱がない場合には、冬は巣穴を塞がないようにしましょう。



1. 今年は暖冬の予想ですが・・・

報道では、今年の冬は「暖冬」との予想ですが、冬であることには変わりがありません。十分な冬対策を始めてください。

特に、鳥類を飼育している小学校では、「高病原性鳥インフルエンザ」対策として、渡り鳥対策をしっかりと実施してください。暖冬でも渡り鳥は飛来しますので、油断は禁物です。

ウサギは寒さにも弱いので、しっかりと防寒をしてあげましょう。

2. ウサギの冬支度

ウサギの冬支度は、北風対策と防寒対策が必要です。その方法の具体例を挙げてみました。

北風対策

- 透明ビニールシートを利用した方法

農業用・園芸用の透明ビニールシートを飼育舎のフェンスに設置します。上部には、換気用のスペースを確保し、フェンス上端から 40 cm～1m 位は開けておきましょう。

参考価格：厚み 0.5 mm×幅 140 cm×長さ 1m で 1,400 円位(アマゾン調べ)



防寒対策

- 巣箱の設置

巣箱は寒さ除けとして最適です。巣箱の中には、十分な敷きわら(なければ、新聞紙を細く割いたものや、シュレッダーの紙片を使用しても良いでしょう)を入れてあげましょう。



- 敷きわらの増量

コンクリート床の場合、寒さがより引き立ちます。敷きわらを多く敷き詰めてあげましょう。飼育舎が広くて、敷きわらが大量に必要になってしまう場合は、区画を分けると良いでしょう。



3. 鳥類の冬支度

3. 鳥類の冬支度

渡り鳥対策

- 防鳥ネットの設置
- 飼育舎外のエサ場、水場を撤去
- 踏み込み消毒槽の設置

防寒対策

- 北風対策
- 巣箱の設置



鳥類の冬支度は、「高病原性鳥インフルエンザ」防止のための渡り鳥対策と防寒対策が必要です。

渡り鳥対策

- 防鳥ネットの設置(侵入阻止)

「高病原性鳥インフルエンザ」の感染経路である渡り鳥の、飼育舎内への侵入を阻止する目的で、市販の防鳥ネットを飼育舎の周りに設置します。防鳥ネットは、軒から地面までの幅で設置することが望ましいです(左の画像参照)。網の目の大きさは2 cm以下が望ましいとされています。

参考価格:幅 1.8m×長さ 18m の防鳥網で、350 円位(アマゾン調べ)

- 飼育舎外のエサ場、水場を撤去(接触阻止)

「高病原性鳥インフルエンザ」の伝染は、エサ場や水場を感染経路である渡り鳥と共有することで起こるとされています。渡り鳥は餌と水を求めて飛来しますので、その場所を与えないことが大切です。

- 踏み込み消毒槽の設置(衛生対策)

飼育舎に入る時と出る時に長靴の底を消毒する目的で、踏み込み消毒槽を設置すると良いでしょう。

詳しくは、「みんなのがっこうのどうぶつ 2014年5月配信」の「資料特集号(高病原性鳥インフルエンザ編)」をご参照ください。

防寒対策

- 北風対策

ウサギの場合と同様に、透明ビニールシートを利用した方法があります。

透明ビニールシートは、渡り鳥との接触を避ける役割も持ちます。ニワトリなど、主に地面で生活をしている種類は、フェンス上端から20 cm~40 cmほど隙間を開けておきます。インコなど、主に樹上で生活をしている種類は、フェンス下端を20 cm~40 cmほど隙間を開けておきます。

- 巣箱の設置
木製のしっかりした巣箱でなくても、段ボールなどで簡易的に作ったものでも十分に防寒の役目を果たします。入り口は、ウサギの場合よりも大きめに作ってあげる必要があります。



学校飼育動物を考えるページより

チャボ巣箱 (ウサギも入り口の大きさは同じ)

材質:木製、厚さは1cm以上ないと暑さ寒さがしのげない、但し安い合板だと、風雨で板がばらばらになってくる

大きさ:幅40~45cm、奥行き40cm、高さ40cm位
(少し広くするとついでに入れる/床面積 縦横45cmあれば大広間)

扉(前面の蓋):開閉、あるいは上に掲げられるように、工作する。
但し安い合板だと日光などで曲がってしまったり開閉ができなくなる。

入り口(動物が通れる大きさ):前面の蓋に、横10cm、縦12cm位の入り用の穴を開ける。
(ウサギ用は、縦横10cm)

切り抜いた板をなじ止めで開閉扉にする、嵐などの夜には閉めれば安心だが、夏期は締めず開けてやらないと中の暑さで死ぬ恐れがある。
開け放してあげば、自由に出入りする。

★毎日、前面の蓋を開けて中を掃除し、新聞紙を取り替える。

設置場所:首段はちょっと高い所に置くこと(地面から50cm位)
巣箱の安定が悪いと怖がって中に入らないのでガタガタしないようにする。
ひなが生まれたら、孵化後2日目から外を歩いて虫や土などを糧が食べさせるので、ひなが出入りできるように、地面に巣箱を置く。
掃除中に外に親子を出してやること。



公益社団法人 栃木県獣医師会
Tochigi Veterinary Medical Association

公益社団法人 栃木県獣医師会
学校飼育動物委員会

〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和1-1-23
☎0286(22)7793 Fax0286(21)9660